

概要報告

実施期日	8月3日(木)
部会名	中学校 美術部会

神奈川県研究主題

「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」

テーマ

『豊かな発想をもとに、主体的・対話的な学びを通して生きる力を養う』

授業概要

中学一年生が、10月から1月まで15時間かけて紙粘土等を用いて、立体作品の制作を行った。

実践題材名 「○○の世界」

題材を通して、生徒一人ひとりが、教師や自分自身と対話を繰り返し、感性を生かして題材に取り組んだ。多くの生徒は、小学校から中学校に進学し、授業の成績や評価についての不安を抱き、かつてのような自由な発想や構想で制作をすることが苦手になっている。また、教師が正解を提示してしまうと、自由な表現を試みる生徒が益々少なくなってしまう傾向がある。自分の得意なことや個性を生かすことができずに、受け身になってしまうということに課題意識をもっている。

そのため、こういった言わば硬直した状況を打破するために、紙粘土、黒い絵の具、金の絵の具という限られた素材と色彩のみで、自由な発想・構想をする機会をつくったのである。

授業のプロセスは以下の通りである。

- ① イメージを膨らませるためのアイデアスケッチを行う。過去に上級生が制作した、同じ題材の作品を鑑賞し、完成イメージをもつ。
タブレットや他の班員との対話を通じて、題材のテーマを自分の生み出した主題に重ね合わせていく。一人ひとり、教員のもとに相談に行き、足りない部分についてのアドバイスを受ける。(3時間)
- ② アルミ針で骨組みをくみ上げる。
配付された板の上にアルミ針を立て、粘土を貼り付けるための土台を生成する。(4時間)
- ③ 粘土肉付け。(5時間)
- ④ 黒塗りをした後に、金属風の着彩をする。(2時間)
- ⑤ スケッチブックに作品の説明や気付きなどを書き、ワークシートを持って教室を回りながら鑑賞を行う。良いと思う作品を3つ選び、発想の面白いものや魅力を感じた作品について、具体的に書く。(1時間)

質疑応答

なし

協議の柱及び協議概要

「自由な発想で制作することに苦手意識を抱いている生徒への手だて」

*授業者は、自由な発想が苦手な生徒へのアプローチとして、昨年度の作品をヒントにしたり、生徒同士で話し合いをさせたりしながら、発想を豊かにさせている。

- ・教室の前の方に、参考になる作品を並べ、技法や表現方法についてのイメージをもたせるように工夫すると、生徒は制作がしやすいのではないだろうか。
- ・コンセプトを考える時間を丁寧に取ることが大切。
- ・「自分が一番表したいことは何なのか」を指導者としてしっかり話をすることが必要。

【授業の感想】

- ・子どもの内発的なイメージを反映する題材を扱っており、刺激的だったのではないだろうか。
- ・中学校1年生なのに、非常にレベルの高い作品を制作している。
- ・提案で紹介された作品は、どの程度の評価なのか。

まとめ概要

1. 題材の工夫

生徒が、制作をしていく中で課題を見つけ、それぞれが目標をもって制作をしていた。

自分が得意なことや、できることを伸ばしていくことができる自由度をもった題材になっている。

2. 教え方の工夫

生徒との対話を重視し、資質を高める活動ができていた。

構想や表現の多様な形を、広い視点で評価している。長い時間をかけて一つの作品を描いているので、地道でありながらも、子どもの成長を促すように指導をしている。